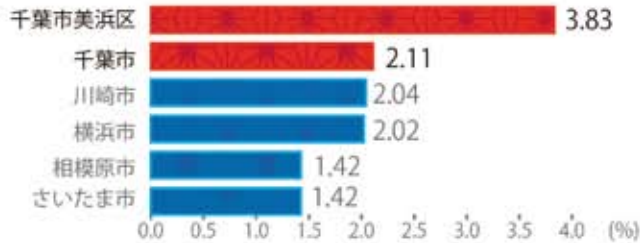


## 外国人の割合が高い都市、千葉市

関東周辺の指定都市の中で、千葉市は外国人比率が最も高い都市の一つです(図2)。文化的背景が異なる外国人と相互理解を深め、共存していくためには、今までと同じような対応ではなく、特性を考慮した対策が必要となります。そこで、千葉市の外国人・移民対策について、総合的に質問しました。美浜区では外国人比率が59%にもなる市営住宅があり、外国人のトラブル発生率は13.5%と日本人(7.1%)と比較して高く、言語サポートを必要とする小学児童(210名、82校)、中学生徒(105名、45校)も多いことが判明しました。



> 図2. 東京周辺の指定都市の外国人比率

千葉市国際交流課のデータより作成, 2013

> 表2. 千葉市に新設・増員される保育所

保育所名	地区	定員	割合
アストロナーサリー	稲毛区	30人	43%
稲毛保育園	稲毛区	20人	
	小仲台	(増員)	
ししの子保育園	稲毛区	30人	
	小仲台		
ウイスダム ナーサリー	稲毛区 團生町	50人	
稲毛ほほえみ保育園 (設置取りやめ)	稲毛区 稲毛東	48人 (中止)	
3園	中央区	148人	36%
2園	花見川区	88人	21%

千葉市子ども未来局のデータより作成, 2013

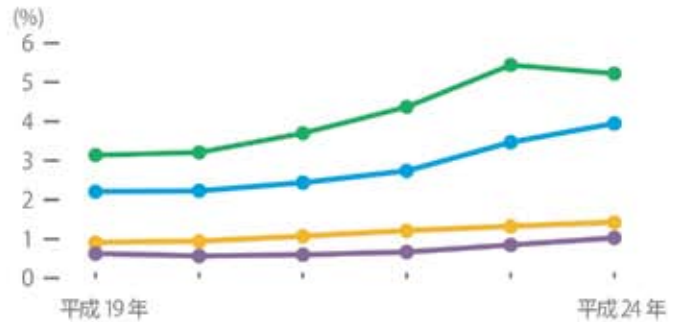
## 外国人の社会的コストは高い

外国人を受け入れる際には、社会的負担(生活保護、国民健康保険、市営住宅トラブル、ゴミ出し、教育等)が発生することを認識する必要があります。特に生活保護は大変深刻な問題であり、対応を間違えると社会の断絶を生みかねません。既に、外国人の生活保護被保護世帯割合は高く、日本人の生活保護が抑えられている一方で、特定の国籍の方の生活保護の割合は増加しています(図3)。

## 高度人材には魅力の乏しい千葉

社会に活力をもたらす外国人の受け入れについては、賛意を表すところで、政府も外国人高度人材の受け入れに対して優遇措置を導入しています。このような人材を受け入れるためには、住居、医療、教育のインフラ整備が必要ですが、医療機関の外国語対応、インターナショナルスクールへのサポートなど受け入れ体制が整っておらず、外国人高度人材にとって魅力的な都市ではありませんでした。

● フィリピン ● 韓国・朝鮮 ● 日本 ● 中国



> 図3. 被保護世帯数を外国人登録数で割った割合

千葉市保護課のデータより作成, 2013

## 保育所設置取り止めで影響がないよう要請

平成26年度の保育所児童定員増員の43%が稲毛区に集中しており(表2)、保育所定数からの保育ニーズが最も高い地区の一つとなっています。しかし、稲毛東に開設予定だった「稲毛ほほえみ保育園」が設置取り止めとなり、48名減(37%減)となっていました。稲毛区の待機児童対策に影響が出ないよう強く要望しました。

## 市長ムスリム街発言否定の言質を取る

熊谷市長が千葉市にムスリム街を作ると発言したとの新聞報道があり、我々の事務所にも発言の内容を確認する問い合わせがありました。不安に思う方が多いことから、議会質問で真意を問うたところ、そのような考えはないと明確に発言を否定されました。神戸のムスリムモスクとその周辺を視察に行きましたが、ここまでになるには長い歴史と住民との信頼関係があったようです。千葉市の外国人対応が不十分な中では時期尚早であり、住民の意見が尊重されなければいけません。



> 市長ムスリム街  
発言関連報道

熊谷市長「ムスリム街を作りたい」(毎日新聞:2013年11月15日付)  
熊谷市長「千葉にはムスリム街がいい」(朝日新聞:2013年11月16日付)

## 編集後記

医学部の教員時代は海外出張が多く、海外のグローバル化の光と影の部分を見てきました。また、大学院時代は留学生の特別指導員もしていました。人口減少を見据えれば、移民による人口増により社会に活力を求めるといった議論もありますが、移民を多く受け入れた欧州では、福祉・社会保障のタダ乗りとの批判が出ており、その問題点が指摘されています。社会的負担がある事実も知った上で、どのように対応するか議論する時です。いずれにせよ、既に多くの外国人が住む千葉市は、外国人との共生、相互理解を深める体制を早急に整えなければいけません。